

# 積ん読のすすめ



皆さん、卒業おめでとう。皆さんが中央大学そして経済学部で過ごした学生生活が、実り多く有意義であったことを願っております。ご父母の皆様にも、心からお祝い申し上げます。長い間、本当にご苦労様でした。

経済学部は、今年で創立100周年を迎えます。この記念すべき時に経済学部を飛び立つ皆さんに、「積ん読のすすめ」を贈る言葉に致します。積ん読とは、辞書によれば「本を読まずに積んでおくこと」です。その心は、これほと思う本は今すぐには読まなくても、とにかく手元に置いて当面は表紙を眺めるだけでもいいから買って置きなさいということです。新しい本が一冊自分の部屋に加わるたびに、部屋の空気が変わり、その人の知的空間が広がります。たとえすぐには読まなくても、手近

経済学部長

こぐち よしあき  
小口 好昭

にその本を積んで置くだけでも、知的な刺激が伝わってくるのです。

生きる喜び、愛する喜び、失恋の苦しさや大切さ、人生の悩みやそこから脱出方法、人との付き合い方など、人生を丸ごと学び考える必要があるのは、実はこれからです。古今東西の名著といわれる書物を読むことによって、同時代という身近ではあるけれども限られた人間関係から得られるものを遙かに超えた、人類の知的財産を自分のものにできるのが読書です。

大学で学んだことが実務に直結することは少ないかもしれませんが。しかし皆さんは、課題発見力、冷静な思考力や分析力、対話や討論する力、プレゼン力などを間違いなく自分のものにしていきます。本のある生活を心がけ、これまでに蓄えた力をさらに豊かにし、良識ある市民として大いに活躍してください。